

ISAF Sailing World Cup in Weymouth & Portland 報告書

2015.6.25 レース委員会 磯部 君江

【会期および開催地】

2015年6月9日～14日まで英国南西部ドーセット州に位置するロンドンから車で約3時間の Weymouth Bay and Portland Harbor で開催された ISAF Sailing World Cup に、同じく JSAF レース委員会の岡村さん、鍵富さんと共にボランティアスタッフとして参加させていただきました。お二人と一緒に本当に心強かったですし、いろいろ助かりました。

会場は、2012年のオリンピック・パラリンピックセーリング競技が開催された場所で、風光明媚な美しい海岸線が有名なところですよ。

今年から出場権を得なければ出られなくなった SWC。世界ランキングの上位の艇ばかりなので、そういう意味で運営はしやすいのかもしれませんが。



砂ではなく丸い石のビーチ



会場案内図



ハーバー前には各国の国旗が

【経緯】

今回は、英国に仕事のため駐在されている鍵富さんが現地のヨットクラブに入りセミナーやローカルレースの運営をする中で、今大会の運営主体である [Royal Yachting Association](#) (英国王立ヨット協会) の方々と知り合いになり、JSAF からのボランティアスタッフの受け入れについて相談して下さったところ快諾していただいたという経緯があります。鍵富さんには、派遣が決まってから英国での移動やら何やら、本当にお世話になりました。視察ではなく実際に正式な運営スタッフとして運営メンバーの中に入れていただけたことは本当に有難くいい経験ができました。

実際、スタート&フィニッシュ PIN ボートには私の他に年配の男性2人だけでした。マークやアンカーの上げ下げやオレンジフラッグの上げ下げ、記録等結構忙し

く、しかも英語でコミュニケーションをとりながらという貴重な経験となりました。



Pink PIN の Mike と John



Nacra17 下マーク回航



Finn 下マーク回航

【アンカーリング作業】

私が入ったチームは Pink コースで Nacra17 と Finn が午前と午後の交代でレースを行いました。Nacra17 はスタートしてからトップ艇フィニッシュまで短い時は 25 分しかなく、スタート後にフィニッシュラインを作ってフィニッシュ後にスタートラインを作るという作業がとてもあわただしかったです。

前のレースのラインがそのまま使える場合はラインに付けて置いていたハンディブイを拾えばいいのですが、打ち替えの場合はそうそうやり直している時間もなく、そのせいか、PIN ボートのアンカーラインをととても長く流していました。

初日のボートのエンジンの調子が悪く、二日目に代替となった PIN ボートのアンカーロープには太いチェーンが 10m もついでいて、モニターは 15kg でとても重く、それを上げるのは毎回重労働でした。



アンカーを海に置いておくブイ



15kg のアンカーモニタ



いつも整理整頓

【初めてのスタートシーケンス】

今回のレースでまず驚いたのは、スタートのシーケンスが、通常と違ってしたことでした。

まずオレンジ旗が上がり、その 3 分後に「5」と書かれた白または黒の旗が揚げられます。これが予告信号 5 分前を表します。白地に黒文字の場合は U 旗で黒地に白抜き文字の場合は黒色旗の意味となります。

そして 2 分後（つまりスタート 3 分前）に青旗に「3」と書かれた旗が上がり、同時に「5」は下ろされます。その 1 分後、赤旗に「2」と書かれた旗が上がり、

同時に「3」は下ろされ、1分後に黄旗に「1」と書かれた旗が上がり、「2」が下ろされます。いよいよスタート時間となり「1」が下ろされ、ゼネリコでなければ緑色の旗が上がります。スタート1分後に緑旗も下り、スタート4分後にオレンジ旗を下ろします。



スタート手順書



GPS



トラッキング機器

【記録。英語ヒアリングの壁】

当初、スタートPINマークはオレンジ旗が付いた1.5mくらいのポール付きのブイでしたが、本部船から見にくかったようで、途中からPINポートがPINマークに変更となり、私も記録をJohnと一緒に書くことになりました。

しかし、Mikeはボイスレコーダーを使い、後からそれを聞いたときに状況がわかるように録音していましたので「GBR201の下側のGER258が頭を出してきていて、AUS3はポートからAUT277の下でタック！」等が早口英語で言われて聞き取れるはずもなく。。結局聞き取り記録は断念し、第一レースで実際にスタートした艇数が聞いていた艇数より1艇少なかったこともあり、私のスタート前の役割としてはオレンジフラッグの上げ下げとPINポートから見えた番号を記入することになりました。

フィニッシュは頑張って聞き取ろうと思いましたが、やはりGBRとGERの違い等がきちんと聞き取れず、見ながら記録していましたがRUS、AUS、USA等、まとまってフィニッシュしたときなどは見ながらでもそれらを正しく記録するのはとても困難でした。（とくにNacra17は艇速が速いのであつという間ですので）



記録用ガード付ファイル



奥がPinkコースの本部船



Finnのスタート

【レース日程の変更。長い一日】

今回、3日目は風が弱くどちらのクラスも海面まで出艇してきましたが、結局どちらも1レースもできず、4日目に Nacra17 は4レースを行い、Finn は3レースを行いました。3日目にレースを強行したところもあったようですが、少なくとも Pink コースはレースができるような状況ではありませんでした。4日目は朝9時に出港し、夕方6時半に帰港したので9時間半海上にいたこととなります。長い一日でした。夜9時頃までは明るいため時間の感覚が狂ってしまいます。

毎日ハーバーに帰ってきたらまず桟橋のガソリンスタンドで給油した後、着岸して片付けや着替えをし、2F のレストランで飲物をいただきながら、簡単なチームミーティング（明日の日程確認等）をして解散という流れでした。



RUS247 を曳航



くつろぐ Pink コースのメンバー



11日のParty。音楽とダンス

【メダルレース】

最終日のメダルレースの運営（2海面）については、前日の朝は誰もどの運営チームがメダルレースの運営をするのか聞いていないようでした。夕方のミーティングで、私たち Pink コースは今日で解散という話があり、メダルレースは運営しないのだと知りました。鍵富さんの 49er&FX コースはメダルレースの運営もすることになり、岡村さんと私は陸上でメダルレースをテレビ観戦することに。鍵富さんの雄姿（背中だけでしたが...）は YouTube で世界に配信されていました。

トラッキングシステムは、アジア大会より格段に精度のいいものでした。



メダルレース前にスロープ前に整列。手前が1位



レーザーラジアルも整列。手前が10位



メダルレーススケジュール

【その他】

計測で使っていた艇庫の隅に、Notice Board 等のコーナーが設置されていました。運営陣はこの奥の一角で毎朝ランチを受け取り出港していきます。Pink コースは本部船と PIN ボート分の 10 袋を毎日 John と私が受け取る役割でした。

ランチは、コッペパンのサンドイッチと果物（小リンゴかバナナ）とチップスの小袋とチョコバー。飲物は配布された大会ロゴの入ったプラスチック容器に各自で 2F のカフェに置いてある Water Server から入れてくるというシステムでしたので忘れると飲物がないということに。寒かったのでそんなに水分は必要ありませんでしたが。

大会が準備した夕食（または Party）のチケット 5 日分が受付で受け取った封筒の中に入っていたため、夕食はほとんどそれで済ませることができました。今回は円安ポンド高で物価が倍に感じました。夕食チケットは無料だったので本当に助かりました。



Notice Board



Equipment Inspection



Results Board



Information



トレーニングバイクの奥がランチ受
取場所



6月9日の夕食チケット

【番外編。Weymouth Sailing Club】

土曜日の夕食は、バンズにハンバーグが挟んでいるだけのハンバーガーだったため、鍵富さんのチームの方で Weymouth Sailing Club のメンバーがおられ、クラブハウス行こうという話になったそうで、喜んで連いていくことに。車で 10 分程度の川沿いにクラブハウスが。小ぢんまりしたかわいいクラブハウスで、周りほど

こを写しても絵葉書の様な景色でした。

クラブハウスのバーで赤ワインをいただき、その後歩いて街へ。最初に入ったレストランは込んでいたのでやめて近くのイタリアンへ。英国初の外食がイタリアンになるとは予想外でしたが、美味しい食事をいただけたので大満足でした。



Weymouth Sailing Club 入口



WSC の2F にあるバー



WSC から外を臨む



WSC 近くの小路



ご近所の家。ラブリーです



いかにもヨーロッパの美しい景色



WSC から徒歩すぐの広場。レストランもたくさん

【まとめ】

今回は、渡英前に ISAF の公式サイトで ISAF Sailor ID を確認または新規登録して住所等の情報を入力するという作業をする必要がありました。その ID を ISAF にメールし今回のスタッフ登録完了というような感じでした。

大会のセキュリティーは、受付で受け取った ID チップ入りのゴム製リストバンドで管理され、各出入り口で警備員が管理する機器にリストバンドをタッチすると氏名が画面に出てきて「OK」となるシステムでした。(たまに機器の調子が悪く、単にリストバンドを見せれば OK という状況も) 今後も IT 化はどんどん進んでいくことでしょう。

2020 年東京オリンピックまでにはいろいろなシステムも変わっているでしょうが、大会を作っているのは人ですし、大会に出ているのも人なので、変わらぬ思いはあるはず。

今回の機会をいただけたことに心から感謝し、また改めて人脈の大切さを感じ、これから 2020 東京オリンピックに向けて、いいレース運営、大会運営をまた一つ考えるきっかけとなりました。

日本で開催する国際大会の運営では英語はそう必要ないかもしれませんが、それまでの人脈を作るとか情報を得るためには英語が必須であることは明らかです。自動同時通訳イヤホンとかの開発も考えられますが、やはり人とのコミュニケーションは直接が一番です。

2020 年までだけではなく、今後の日本のセーリング界を考える上でも英語は避けて通れません。これから日々英語に触れる機会を多くして少しでも慣れていこうと思います。当然言葉以前に、運営スキルはもちろん、おもてなし、ホスピタリティという大事なものもありますが。

この貴重な経験をする機会をいただき感謝申し上げます。英国の皆様にも本当にお世話になりました。ありがとうございました。

SWC in Weymouth 公式サイト

http://www.sailing.org/worldcup/regattas/weymouthandportland_2015.php